



ご挨拶

コロナの終息も未だ先行き不透明な新年度の幕開けとなりましたが、弊社が昨年来開校の準備をしてまいりましたフジトレーニングアカデミー（FTA）は関係諸官庁並びに開校に携わった数多くの皆様のご支援のもと正式な事業の開始の運びとなりました。

施設の内容については、既に本News Letterや月刊誌「Helicopter Japan」や「航空ファン」、日本航空技術協会様の月刊誌「航空技術」3月号、更には産経新聞大阪版などにて詳細な紹介記事が掲載されており、業界の方々からの注目も極めて高く期待されていることを実感しております。

弊社としてはこうした方々からの期待にお応えし、業界の安全運航・整備の品質向上を目指し、貢献していきたくと考えております。

当該施設の開校にあたり、来る5月23日（月）には読売新聞社様のご協力により弊社AW139模擬飛行装置（フル・フライト・シミュレータ：FFS）を使用したRNAV航行の講演会を開催致します。また、併せてフジトレーニングアカデミーの施設見学会を予定しておりますので、この機会に是非ご参加いただき、今後の各種訓練にご利用頂きたくお願い申し上げます。

株式会社フジアビエーションシステムズ
代表取締役社長 米原 慎一



目次

- ・レオナルド式AW139型模擬飛行装置を使用した訓練開始
- ・AW139模擬飛行装置での航空隊員ホイスト・ミッション訓練
- ・フジトレーニングアカデミー掲載記事のご紹介
- ・フジトレーニングアカデミーへのアクセス
- ・ヘリコプターRNAV航行講演会のご案内（別紙）

レオナルド式AW139型模擬飛行装置を使用した訓練開始



弊社レオナルド式AW139型模擬飛行装置（フル・フライト・シミュレータ：FFS）は2022年1月4日付で国土交通大臣から国内唯一の最高レベルDの認定を取得しました。
これにより、既に2021年7月に認定取得済みAW139型飛行訓練装置（フライト・トレーニング・デバイス：FTD）レベル5（AW109SP型飛行装置はレベル4）とともに、航空法に規定されている限定変更実技試験科目の一部、最近の飛行経験の充足、特定操縦技能審査などを行うことが可能となりました。

同FFSは、認定取得後の本年2月中旬から訓練に使用を開始し、3月末までに約270時間の稼働実績を記録しています。

教官操作卓からタッチパネルで、気象、機体重量、燃料搭載量、故障・不具合事象などの細かい条件を設定し、機体の不具合や急な天候の変化を再現することにより、お客様の要望に合わせた訓練が可能になっています。
また、FFSで実施した訓練の操縦操作、FFS内での会話、ATC交信はカメラで録画され、飛行中のヘリコプターの姿勢およびすべての飛行データは訓練終了後に3画面から構成されるデ・ブリーフィングステーションで再生され、訓練内容を効果的に振り返ることができます。

ご利用頂いたパイロットの皆さまの評価は良好で、これまで実機では再現不可能だった緊急・非常操作訓練を繰り返しできることが略実機同様の操作性を再現しているFFSと相まって評価に繋がっています。

弊社は、10月のオーソライズド・トレーニング・センター（ATC）取得に向け、引き続き準備作業を進め、レオナルド訓練センターと同様の高い訓練品質を担保して空の安全向上に微力ながら貢献して行きます。

AW139模擬飛行装置を使用した航空隊員ホスト・ミッション訓練

先般、弊社AW139模擬飛行装置（フル・フライト・シミュレータ：FFS）を使用したホスト・ミッション訓練が実施されました。航空隊員に特化した、緊急操作訓練を想定し実際のヘリコプターの動きや、ホストミッション中の降下隊員やサバイバーのトラブル対応を検証する訓練です。

同FFSは、計器飛行や緊急非常操作訓練だけでなく、高度なミッションシナリオ訓練をも可能とします。

以下に訓練を終えた弊社教官の声ををご紹介します。

今回の訓練では、第一にOGEホバリング中のOEI離脱手順の検証を行いました。

“OEI”とはOne Engine Inoperative（片発不作動）のことです。

この手順は飛行規程に定められているとおり、NOSEを-20°下げの姿勢から徐々に引き起こすことにより、離脱に必要な最小速度を獲得するためのものですが、前進する方向に障害物がないこと、高度ロスを伴うために地表又は地表の障害物から定められた高さが必要になります。基本飛行規程はあくまでクリーンな機体の状態で且つ障害物のない空域が確保できるならば、危険な状態から脱することができる機体性能を持ちえるということを示しているにすぎません。従って、消防防災航空機等においては、追加装備（ホスト）を装備していること、救助場所を選定する権限を救助者側が持ちえないこと等、さまざまな場所でホストによる救助ミッションが行われていることから、片側エンジン故障発生（OEI）時に、常にこの手順が適応できるわけではありません。

今回、隊員の方々に体験してもらったのは、片方のエンジンが故障した場合の上記離脱手順一連の挙動と時間的な感覚を体感してもらうこと、加えて、下方障害物までのクリアランスが十分ない場所やフライアウェイ（OEI状態での離脱）のための経路が塞がれているような地形でHOVし、救助せざるを得ない場合の対応としては、機体は真下の要救助者を避けながら至近に下降することになってしまいますが、そのような時に備えとしてなにが必要なことなのか、場合によっては機長の究極の判断を受け入れざるを得ないケースなどを実際に体験してもらうことでした。更に、HOV中のT/R故障も行い右回転を体験してもらいました。

このような事は、救助機関のヘリコプターにはつきものであるにも関わらず、これまで機体の性能的にも回復困難な事態であり、目をつぶって綱渡り的に実施してきた部分でもあります。

今回体験してもらった隊員は異口同音に

「やっとこれまで機長が言っていたことが分かった。これは他の防災航空隊の隊員も知るべき必要がある。」

と有事の際のイメージがかなり具体的に掴めた様子でした。

今回の訓練では、操縦士や整備士訓練だけではなく、救助活動に尽力されている操縦士とホストマン含めた隊員の同時訓練にもよりよい効果が期待できると思われ、目をつぶってきたことから一歩前進するきっかけとなり、消防防災業務の新たなSOPとして確立されることにもシミュレータが有効であることが実証されたと考えています。

シミュレータ訓練では、実機ではできないトラブルを何度も繰り返し体験できること、また違うシチュエーションの設定で実機に近いリアルな体験ができることで大変好評をいただいています。



フジトレーニングアカデミー(FTA)掲載記事のご紹介

フジトレーニングアカデミー (FTA) に関する記事が新聞、雑誌等に掲載されました。

▶産経新聞大阪版夕刊およびweb掲載 (動画：フライトシミュレータ 命救うスキル磨く)



産経新聞web記事の内容を抜粋し、ご紹介します。

急迫する災害や事故の現場で人命救助ができるヘリコプターは極めて重要だ。ところが、ヘリの本格的なシミュレータを持つ訓練施設は少ない。4月オープン of ヘリ訓練施設「フジトレーニングアカデミー」(静岡県牧之原市)は、ヘリ特有の振動までを再現する模擬飛行装置「フル・フライト・シミュレータ(FFS)」を導入するという。国内初の、優れモノのシミュレータを体験してみた。実際に乗り込むと、前方に静岡空港近辺の3D映像が浮かんだ。操縦席に座り、シートベルトを締めた。シミュレーションがスタートし、離陸すると、ふわっと身体が持ち上げられるヘリ独特の浮遊感がやってきた。場所や日時、天候は訓練途中でも変更でき、夜間、悪天候下の操縦シミュレーションも可能という。もちろん救助を想定とした訓練もできる。

詳しくは、以下のリンクで動画をご覧ください

<https://www.sankei.com/article/20220316-TIYGBEWTEFPYRARZAKMODSBQ5U/>

その他の掲載記事

▶月刊「航空技術」 No.799 2021 10月号、No.804 2022 3月号

▶隔月刊誌「Helicopter JAPAN」 No.262 2021 8・9月合併号 No.265 2022 2・3月合併号

▶月刊「航空ファン」 No.833 2022 5月号

▶ AIN online

<https://www.ainonline.com/aviation-news/general-aviation/2022-03-10/leonardo-aw139-sim-installed-japan>

▶Vertical

<https://verticalmag.com/press-releases/leonardo-and-suzuyo-announce-first-certified-helicopter-level-d-ffs-in-japan/>

▶Rotor Hub

https://www.rotorhub.com/hai-heli-expo-2022-leonardo-and-suzuyo-mark-first-certified-helicopter-level-d-full-flight-simulator-in-japan/?utm_source=rss&utm_medium=rss&utm_campaign=hai-heli-expo-2022-leonardo-and-suzuyo-mark-first-certified-helicopter-level-d-full-flight-simulator-in-japan



フジトレーニングアカデミーへのアクセス

フジトレーニングアカデミーは、富士山静岡空港より3.6Km、車で約5分の坂口トレーニングセンター内にあります。広大な牧之原台地を背に、落ち着いた環境で訓練を受講いただけます。

【電車・バスでのアクセス】

JR藤枝駅南口より、富士山静岡空港アクセスバスをご利用いただき、『空港南』バス停で下車。運航ダイヤ、料金については、下記URLをご参照下さい。

<https://www.city.fujieda.shizuoka.jp/benri/bus/1450040564208.html>

【お車でのアクセス】

東名高速道路『吉田IC』より7.6Km、約12分

東名高速道路『相良牧之原IC』より10.5Km、約15分です。

【飛行機でのアクセス】

下記の空港と富士山静岡空港の間に空路がございます。

尚、富士山静岡空港からは、アクセスバス（約7分、片道500円）またはタクシー（約5分、片道1,500円）でのご移動となります。各航空会社の運航ダイヤ、料金につきましては、下記URLをご参照ください。

◆フジドリームエアラインズ（2022年夏ダイヤ）

新千歳空港 1日1往復

丘珠空港 1日1往復

出雲空港 1日1往復

福岡空港 1日4往復

熊本空港 1日1往復

鹿児島空港 1日1往復

フジドリームエアラインズの公式ホームページをご確認ください。

<https://www.fujidream.co.jp/timetable/>

◆全日本空輸（2022年夏ダイヤ）

新千歳空港 1日1往復 ※期間限定運航

那覇空港 1日1往復 ※期間限定運航

<https://www.ana.co.jp/fs/dom/jp/>

【最寄りの宿泊施設】

《藤枝駅周辺》

・ホテルルートイン藤枝駅北 ※弊社契約料金でお得にご宿泊が可能、坂口トレーニングセンターまで平日の朝夕無料送迎車付きです。

・ホテルオーレ藤枝

・東横INN静岡藤枝駅北口

・ホテルスーパー泊

《吉田インター周辺》

・ホテルルートイン島田吉田インター

・ハタゴイン静岡吉田インター



FAS 株式会社フジアビエーションシステムズ

【本社】

〒420-0859 静岡県静岡市葵区栄町1-3
7799

【FUJI TRAINING ACADEMY】

〒421-0411 静岡県牧之原市坂口2053-1
TEL (0548) 23-3118 FAX (0548) 23-3117
<https://www.fuji-aviation.co.jp/>

問合せ先：株式会社フジアビエーションシステムズ

FTA事業本部 FTA事業部

担当：柿下 e-mail: info@fuji-aviation.co.jp

TEL (0548) 23-3118

FAS-事業第22-001号